

加藤内科広報新聞 3月号

春寒が次第に緩み、これからは一雨ごとに春の息吹が
感じられる日々となりますね。
大阪でも桜の開花が始まりそうです。



予防接種のお知らせ

※風疹、麻疹混合ワクチン(MRワクチン)

H25年度対象になる方はH26年3月31日までに接種して下さい。
対象年齢を過ぎると無料で受けられなくなりますので、ご注意ください。

H25年度、対象の方 ※予約制ではありません。

第1期 生後12カ月～23カ月

第2期 小学校就学前の1年間(H19年4月2日～H20年4月1日生まれの方)

※第3期及び第4期の特例接種はH24年度をもって終了となりました。



※ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン

H25年度より定期接種化(国が負担)することとなりましたので、引き続き
H25年度も堺市内に居住されている方は当院にて接種ができます。

※子宮頸がんワクチン

H25年度より定期接種化(国が負担)することとなりました。

それに伴い、4月から加藤内科でも接種ができるようになります。

※予約制になりますので、ご希望の方は受付スタッフまでお問い合わせ下さい。

保険証のお知らせ

※高齢受給者証

70歳～75歳未満の方の一部負担金等がH25年4月1日～H26年3月31日
まで引き続き1割負担と据え置きになりました。

(但し、所得によって1割負担の方と3割負担の方があります。)

※各種公費医療証

こども医療証、障害者医療証等、有効期限が

H25年3月31日までとなっているものがあります。

新しく更新された医療証をお持ち下さい。

新しい医療証等が届きましたら、窓口までご提出をお願いします。

保険証の変更等がある方は、必ず受付スタッフまでお申し出下さい。



《子宮頸がん》



※「子宮頸がん」とは？

子宮は、女性にしかない特別な臓器のひとつです。
この子宮の入り口付近「子宮頸部」にできるがんを「子宮頸がん」といいます。
子宮頸がんになった場合、子宮や子宮の周りの臓器を摘出しなければならないことがあります。
また、がんがもっと進行した場合、生命そのものに対して重大な影響を及ぼす恐れがあります。

※どんな人がなりやすい？

子宮頸がんは遺伝などに関係なく、性交経験がある女性なら誰でもかかる可能性のある病気です。
女性特有のがんの中では乳がんに次いで第2位を占めており、近年では、20代後半から30代に急増、若い女性の発症率が増加傾向にあります。

※子宮頸がんの症状は？

初期には全く症状がないことがほとんどで、自分で気づくことはできません。
そのため、不正出血やおりものの増加、性交時の出血などに気がついた時には、がんが進行していることも少なくありません。
子宮頸がんになった場合、子宮をすべて摘出する手術が必要になったり、がんがさらに進行した場合、周りの卵巣やリンパ節などの臓器の摘出、また命にかかわることもあります。

※原因は？

子宮頸がんの原因は、ほぼ100%「ヒトパピローマウイルス(HPV)」というウイルスが子宮頸部に感染することにより発症することが明らかになっています。
多くの場合、性交渉によって感染すると考えられ、女性の約80%が一生涯に一度は感染していると報告されているほどありふれたウイルスです。



※予防方法は？

子宮頸がんは原因やがんになる過程がほぼ解明されているため予防ができるがんです。
まずは、検診を受けましょう。定期的に検診を受けることで、がんになる前の状態を発見し、子宮を失わずに治療することができます。検診そのものは、わずか5分程度で終わる子宮頸がん検診ですので、1～2年に1度は検診を受けるようにしましょう。
また、子宮頸がんの予防ワクチンがH25年度から国の公費負担となりました。
該当する対象年齢の方は期間内に接種ができますので、必ず受けておきましょう。



※子宮頸がんの予防ワクチン

子宮頸がんの原因として最も多く報告されているHPV16型とHPV18型の感染を防ぐことができるワクチンです。半年の間に3回の接種が必要となりますが、ワクチンの種類によって接種時期が異なりますので、必ず同じ種類のワクチンを、接種間隔を守って受けるようにしましょう。

当院でもH25年4月より接種が可能となります。
予約制になりますので、詳細等は受付スタッフまでお問い合わせください。

次回 4月20日発行予定